

### 9. バイオミラ CA 19-9 RIA キットによる血中 CA 19-9 測定

吉開 友則 八木美佐子 一矢 有一  
桑原 康雄 大塚 誠 増田 康治  
(九大・放)

血中 CA 19-9 測定は肺癌の診断、経過観察に広く利用されている。今回、新しいキットである「バイオミラ CA 19-9 RIA キット」(アマシャム)による血中 CA 19-9 測定について検討した。本キットは測定時間が 3 時間と短かいこと、操作が簡単であることの特徴がある。基礎的検討では、再現性、希釈試験、回収試験ともほぼ良好な結果であった。セントコア製 CA 19-9 キット(トーレ・フジ)との相関では、 $n=80$ ,  $r=0.91$  と相関は良好であったが、 $Y=0.22X+2.85$  と本キットの方が低い値を呈した。 $52 \text{ U/ml}$  を基準値として用いると、肺癌の陽性率は 86% であった。一方、慢性肺炎・胆道炎では全例陰性となり、良・悪性の鑑別に有用な指標になることが示唆された。

### 10. バイオミラ CA 19-9 の検討

#### —セントコア CA 19-9との比較—

勝山 直文 小牧 洋美 伊波利枝子  
堀川 歩 中野 政雄 (琉球大・放)

バイオミラ CA 19-9 RIA キット(アマシャム薬品)はチューブ固相法を用いるため、従来の方法と比し操作が簡便で迅速である。基礎的検討では、希釈試験、添加回収試験、再現性試験とも良好な結果が得られた。正常検体 270 例を用いて得られたカットオフ値は  $32 \text{ U/ml}$  であった。症例の 3/4 以上は  $10 \text{ U/ml}$  以下であった。セントコア CA 19-9 RIA キットとの比較検討では  $Y=0.91X+13.1$  ( $n=143$ )、相関係数 0.66 で、バイオミラキットによる値の方が全体的に低い傾向にあった。疾患別検討では、肺癌、胆道系癌では両キットによる値は比較的類似していたが、肝細胞癌、大腸癌などでは不一致を呈する症例が多かった。F・P が少ないのも本キットの特徴と考える。

### 11. Diamox® 負荷による $^{99m}\text{Tc}$ -HMPAO SPECT —PETとの比較—

桑原 康雄 一矢 有一 大塚 誠  
吉開 友則 福村 利光 増田 康治  
(九大・放)

Diamox 負荷  $^{99m}\text{Tc}$ -HMPAO SPECT の有用性を PET 所見と比較することにより検討した。対象は脳血管障害患者 24 例(脳梗塞 14 例、脳一過性虚血発作 3 例、その他 7 例)である。SPECT 装置は Starcam 400 AC/T を用いた。 $^{99m}\text{Tc}$ -HMPAO は負荷前検査として 370 MBq(10 mCi)、Diamox(1 g) 負荷後は 740 MBq(20 mCi) を投与した。負荷後の画像から物理的半減期を補正した負荷前の画像を差し引くことにより、Diamox 負荷画像を作成した。結果は 24 例中 10 例で局所の反応性低下がみられた。これらの部位では PET で測定した  $\text{CO}_2$  反応性が低下していた。通過時間も遅延し、酸素摂取率は高い傾向にあった。Diamox 負荷による  $^{99m}\text{Tc}$ -HMPAO SPECT は灌流圧低下部位の検出に有用であると考えられた。

### 12. 片頭痛に対する IMP-SPECT の検討

梅村 好郎 中村るみ子 星 博昭  
二見 繁美 陣之内正史 長町 茂樹  
大西 隆 渡辺 克司 (宮崎医大・放)

片頭痛 11 例に対して脳血流シンチグラフィを行い評価した。装置はリング型カメラ SET-020(島津)、データ処理は ECLIPSE S120(日本データジェネラル)で、医薬品は IMP を用い、111 MBq(3 mCi) を静注後 20 分より撮影を開始した。対象は、片頭痛 11 例(男性 3 例、女性 8 例)で、陽性率および部位別陽性数を検討した。検査はすべて発作間欠期に行った。結果: 11 例中 4 例(36%) に血流の低下がみられ、異常部位は後頭葉、側頭葉に多かった。classic type は 5 例中 3 例と陽性例が多かった。片頭痛においては発作間欠期においても血流低下が認められるが、発作の時期との関係など臨床的関連についてはさらに検討が必要と思われた。